

「特別の教科 道徳」学習指導略案

第6学年3組30名

指導者 飛弾 隆輝

1. 主題名「分かり合う喜び」 B-11 相互理解、寛容
2. 資料名「ブランコ乗りとピエロ」（出典：Gakken「みんなの道徳⑥」）
3. ねらい

相手の思いや立場を理解するとともに、自分自身の見方や考え方を見つめ直すことの大切さに気付
き、相手との違いや過ちも広い心で受け止め、寛容な心でよりよい人間関係を築こうとする態度を
養う。

4. 展開

時間	学習活動(○発問、☆中心発問)と児童の反応(・)	◇指導上の留意点 ◆評価の視点
導入 5分	1 学習することについて確かめる。 ○「寛容」とは何だろうか。 ○本時の問い「人はどうすれば寛容になれるのだろうか。」	◇「寛容」を本時の中心概念として提示し、授業を通して意味を深めるよう伝える。 ◇児童からの考えを受け止め、この段階では結論を出さず、教材を通して考える見通しをもたせる。
展開 35分	2 「ブランコ乗りとピエロ」を読んで考え、話し合う。 ○ ゲートのすき間からサムの演技を見ているピエロは、どんな気持ちだっただろうか。 ・自分だけ目立とうとしていて自分勝手だ。 ・約束したはずなのに、、、私の演技を見てもらう時間が無くなってしまう、、、。 ○ ピエロはサムの何を見て、心が変わったのだろうか。 ・観客を喜ばせようと最後まで演技していたこと。 ・サーカスを成功させたいという思い。 ・サムも必死に努力していたこと。 ○それを見て、ピエロ自身はどう変わったのだろうか。 ・自分も目立ちたい気持ちがあった。 ・自分もサムを決めつけていた。 ・自分にも悪いところがあった。 ・相手のことをちゃんと見ていなかった。	◇前半の否定的な見方を十分に出させ、後半との心情の変化が際立つようにする。 ◇相手のよさを理解したことだけでなく、自分自身の見方や考え方を見つめ直したことに着目させる。 ◇児童の発言によっては、『努力を見ただけで、人の心は変わるのかな。』と切り返すことで、相手理解と自己省察の両面から寛容について考えられるようにする。 ◆相手の立場や思いを考えることで、自分の考え方を見直し、異なる考えを受け入れようとしている。(発言・ワークシート・観察)
終末 5分	4 教材を通して考えたことをもとに、自分たちの生活について考える。 ☆今日の学習を通して、人が寛容になるためには、どんなことが必要だろうか。 ・相手の立場になって考えること。 ・相手の良いところを見つけること。 ・自分の考えを振り返ること。 ・相手を一面だけで判断しないこと。	◇教材から自分の生活へ一般化し、今後の人間関係につなげて考えられるようにする。 ◆ねらいに対する考えをもっている。(ワークシート)